



愛知県板金工業組合 発行 広報委員会 名古屋昭和区北山町 3-8-6 〒466-0006 電話 052-732-1226

平成17年度 第3回 保証制度再講習会

保証制度がこの4月1日より改正されるのに伴い、愛知県板金工業組合ではすべての保証制度適用事業所を対象に再講習会を開催していますが、1月22日(日)に岡崎技術工学院、2月19日(日)の名古屋会場に続き、3月26日(日)にも岡崎技術工学院にて開催し、西三・知多・東三・三河から90名の受講者がありました。これにより370店の適用事業所のうち193店が受講されたことになりました。

今回の再講習会も午前中2時間をかけて齋藤理事長が制度の改正内容を詳しく説明し、又、全板連で作成された想定Q&Aを使って分かり易く解説しました。

このQ&Aの内、先回の2会場での解説と少し異なる回答が新たに全板連より示されましたので次に掲げます。

質問①

過去10年間に保証書を発行したことがある組合員が脱退した場合

(廃業・死亡等で実質的に責任を負えない場合)、当該保証物件に万が一、事故が発生したときは、修補及び財物に対する責任は誰が負うのか。

回答①

修補の責任は(株)全日本建築板金保証センターが負うこととなります。

財物に対する補償責任は、前記同様、(株)全日本建築板金保証センターが負うこととなります。

質問②

過去10年間に保証書を発行したことがある組合員が、平成18年度からは生産物賠償責任保険(PL保険)に加入しない場合、当該保証物件に万が一、事故が発生したときは、修補及び財物に対する責任は誰が負うのか。

回答②

修補の責任は当該組合員が負うこととなります。

* 財物に対する補償責任は、(株)全日本建築板金保証センターが負うこととなります。

午後の講義は保証委員会と技研厨空委員会の委員が務め、「金属外装素材」について沼澤恒一郎氏、「新法建築基準法」と金属外装について神谷聡氏、「パソコンによる風荷重の算定」について石原晴久氏が説明をしました。

最後に「スカイライトチューブ」という新商品(屋根面に設置したドームで太陽光を採光し、鏡面仕上げのアルミ製チューブを通して室内を照明するシステム)を紹介され、メーカーの担当者が実物を展示して商品説明をしました。



▶ 講習会風景

講習の終了後、吉田保証委員長より受講者全員に修了証書をお渡ししました。せっかく受講料を払い一日を費やして受講されたのですから、「団体生産物賠償責任保険」に加入し、保証書を発行することにより顧客の信頼を高め、今後の受注拡大に活かしていただきたいものです。

ファインスチール 普及事業

愛知県板金の17年度実績報告 (18年2月10日現在)

総件数

リフォーム工事 75件
新築工事 66件

総面積

リフォーム工事 13,380㎡
新築工事 17,983㎡

愛知県板金は18年度も引き続きファインスチール普及事業を実施してまいります。現在100事業所がこの事業に参加されていますが、新たに参加を希望される事業所を募集していますので、支部を通じて申し込みください。配布用のチラシとアンケートハガキ、ステッカーを無償でお送りします。

愛知県板金工業組合よりお知らせ

ホームページ上に機関紙「愛板」開設

愛知県板金工業組合の記事・写真はカラーでご覧頂けます。(機関紙「愛板」はモノクロ印刷)

愛知県板金工業組合 ホームページアドレス <http://www16.ocn.ne.jp/~aiban>

地震に強い ファインスチール

● 金属屋根 ●



Fine Steel ファインスチール普及会

安城支部 総会と救命講習会

安城支部は3月12日(日)午後6時より市内の「初寿司」にて総会を開きました。又、それに先だち、2時から5時まで安城消防署にて救命講習を受講しました。この講習は救急車がくるまでの応急手当の方法を学ぶもので、その内容は人工呼吸と心臓マッサージのやり方、さらに、最近公共施設などに置かれるようになってきたAED(自動体外式除細動器と呼ばれ、心臓に電気ショックを与えて心肺蘇生を行う器具)の使用方法を学びました。



▶ AEDの操作方法を学ぶ

数回にわたって実技をするうちに、講師からのアドバイス無しで、手順どおりに実施できるようになりました。

講習終了後、全員に「普通救命講習修了証」が渡され、安城支部より講師にお礼として銅板折鶴が送られました。

この講習のなかで講師が何度も言われたことがあります。それは119番通報の事です。固定電話や公衆電話からの通報なら司令室のモニターに通報場所が表示され、即座に最寄の消防署につながるが、ケイタイ電話からの場合はそうではないので、出勤が遅くなる。身近に固定電話か公衆電話が在るなら、それを使ってほしい。とのことでした。

岡崎支部 第52回通常総会

岡崎支部は、3月12日(日)竜美ヶ丘会館において通常総会を開催した。

本来なら2月開催であるが、一人でも多くの支部員が出席するには何時がいいか役員会で協議した結果、今年度は3月に開催することになった。

定刻の午後3時、加藤副支部長が開会の言葉を述べ久世支部長の挨拶の後、高齢と後継者がいない為12月に退会された元支部員に支部功労の感謝状が贈られた。

議案審議は出席者47名(青年部員2名)で行なわれ、17年度事業報告、会計及び会計監査報告、18年度事業計画案、予算案が承認された。審議の最後にファインスチールと建築板金をどのように合わせてアピールしたらよいか議案が提出された。(特に自動車飯金との区別)

来賓挨拶では、県板理理事長・齋藤充昭氏、岡崎技術工学院理事長・楠名清治氏、西三板金連合会会長・西俣章氏、岡崎技術工学院院长・山本清氏が挨拶された。

最後に18年度岡崎支部のスローガンが発表され、山本副支部長が閉会の言葉を述べた。

懇親会には賛助会員も参加し、青年部によるビンゴゲームで会を盛り上げ支部員同志の親睦を深めた。



▶ 挨拶する久世支部長

知多支部 定期総会

知多支部は、去る3月21日(火)春分の日)阿久比町エスベランス丸山にて、平成17年度総会を開催した。

組員総数81名中、総会出席者38名、委任状提出者21名でした。

ご来賓として県板から、齋藤理事長、衆議院議員・伊藤忠彦氏、愛知県板金総合職業訓練協会・長谷川会長を始め、メーカー・問屋様も多数出席して頂いた。

神谷恒男氏の司会で開会され、冒頭、物故者に黙祷を捧げ、ご冥福を祈った。

竹内支部長が挨拶され、板金業界の高齢化に伴う組員減少、後継者問題、仕事量減少等の問題を指摘し、今こそ組員どうしが協力し合い、生き残りを目指すことが重要と、力強く語った。

引き続き議案審議に入り、理事の松本富夫氏を議長に選任し、提出された議案も、すべて可決された。

豊田支部 第50回通常総会

豊田支部は3月25日(土)に豊田産業文化センターの視聴覚室に於いて第50回の通常総会を開催した。

杉本忍副支部長の司会、松井繁副支部長の開会の言葉で始まった

今回は支部役員改選はないが、地区組長さんは改選された。青年部長も磯崎広佳氏より近藤高明氏にバトンタッチされた。

審議終了後、県板報告・青年部活動報告・献血活動報告がされ、今回は10回献血をされた近藤永久氏に、竹内支部長より感謝状が手渡された。

次に、ご来賓の齋藤理事長よりご祝辞を頂戴し、昨年開催された第57回全国建築板金業者愛知大会が成功裏に終わったことに対する感謝を述べられ、保証制度の改正に伴う再講習会、アスベストに関する特別教育講習会実施を説明された。

商社様代表として電気化学工業株式会社・後藤課長様、問屋様代表として株式会社山善・日比部長様より、ご祝辞を頂いた。祝電・ご祝儀が披露され、総会も滞りなく終了。

休憩を挟み懇親会が催され、景気回復を願いつつ、和やかなうちに閉会された。

岡戸(知多支部)

- * 愛知県板金工業組合副理事長 佐藤 忠雄 様
 - * 西三板金連合会副会長 久世 明男 様
- (3頁へつづく)

(2頁よりつづき)

*豊田高等職業訓練校事務長

鈴木 和義 様

*横山興業(株)豊田営業所所長

加藤 孝治 様

この後、奥田惣氏を議長に選出し議案審議に入った。第1号議案より第4号議案まで賛成多数により可決成立した。続いて報告事項に移り西三板金連合会・創立50周年事業・青年部・技能委員会・豊田高等職業訓練校講師の順で発表され、最後に平成18年度の役員構成と新班長さんの発表が司会者よりされた。この後、来賓祝辞に移り梶板佐藤副理事長、西三久世副会長、横山興業・加藤所長の順で述べられた。赤池高義相談役の閉会の辞で総会は終了した。

松井(豊田支部)

▶総会風景



山善会

第25回総会開催

3月24日(金)名古屋納屋橋のクラウンホテルにて板金問屋(株)山善(名古屋市中川区)の親睦会である山善会の総会が開催された。

知多の青木板金工業所、青木久治氏の司会進行により総会が始まる。まず愛知県梶板理事長であり山善会会長でもある齋藤充昭氏が挨拶され、続いて平成17年会計報告、賛助会員紹介、賛助会員代表として電気化学工業(株)課長後藤一之氏が挨拶された。次に常任幹事(株)山善社長(株)山田将貴氏が挨拶された。その後、役員が紹介され第一部の総会が終了となった。

休憩後、第二部として勉強会、講演が行われた。まず日鉄鋼板(株)部長代理川村明夫氏と主任の水口真士氏が大波スレート用カバールーフ「やまなみ」の工法説明、実演会行われた。今アスベスト問題が話題になっているため、既設スレートを剥がさずに短い工期で簡単、確実な施工方法を分かり易く説明実演して来たとの事。



▶挨拶する(株)山善社長 山田将貴氏

く説明実演された。ここでは会員から施行方法についてさまざまな質問が出ていた。

休憩後、山善会の会員である名古屋市西区の(株)松代銀金の松代一郎氏と弟の松代文衛氏により「大空を飛べなかつた人と飛んだ仲間たちそしてドイツに飛んだ銅板折鶴」と題した講演が行われた。お二人は趣味で始められたグライダー操縦から大空を求めた人達の話題へと楽しくユニークに説明された。その中でお二人が所属する岐阜の大野グライダー倶楽部のメンバーで資金を集め新しいグライダーを発注されたそう、その製造元であるドイツまでメンバー数名で視察を兼ね旅行に行かれたそう。その際、グライダーの製造会社などに銅板折鶴を進呈して来たとの事。



▶総会風景

講演終了後、会場を移し懇親会パーティが行われた。ここからはコンパニオンが加わり、名古屋港区の春田飯金春田将氏(乾杯の音頭をとり、会員メンバーはアルコールもすすみ盛り上がりつつ

た。最後は、梶板広報委員長でもある高橋銀吾氏の中締めで終了となった。その後、各自2次会へと移動したことだろう。

猪飼(津島支部)

技研厨空委員会

より発信

その三

今回は、実際にあった物件について考えて見ます。

現在壁に付いているウエザーカーを外しダクトで8m横へ延ばす様に依頼されました。このときどんなことに注意して工事を進めたらよいでしょうか。

回答

① まず換気扇ですが家庭用換気

豊田支部

豊田市に

記念品を贈呈

豊田支部の松井支部長・福田副支部長・田中義久青年部長の3名は3月10日(金)に豊田市役所産業部産業労政課を訪問し伊藤喜代司部長・林祐一専門官・杉藤嘉洋課長と懇談し銅板と真鍮板で製作した折鶴を創立50周年記念の記念品として豊田市に贈呈した。

松井(豊田支部)

扇を有圧換気扇に変えます。できればステンレスメッシュフィルター付きを勧めます。

② ダクトの大きさは換気扇の直径より小さくしないでください。30センチの換気扇でしたら30センチ角以上、できれば枠の外寸375角で製作してください。

またダクトの曲がり部は内Rを最低でも250ミリは取るようにします。ダクトの先端には、防虫網を付けます。取替えが困難な処ではせめて防鳥網(ステン十五角)を付けてください。

こんなときどうすれば良いか質問がありましたら加藤まで連絡下さい。 FAX 0564・31・2071

▶記念品の贈呈



初めてのミステリーツアー

節分も過ぎた2月9日(木)・10日(金)と、はじめてミステリーツアーに参加しましたので、その心に残る体験を書いてみました。この所旅行パンフレットに「ミステリーツアー」の案内をよく目にするので一度、行き先、行程も解らないツアーも面白いかと、申し込んだところキャンセル待ちとのことだったのでキャンセル待ちとしないのが、キャンセル空気で参加する事になった。

中部国際空港「セントレア」の旅行受付カウンターで添乗員より行程表を渡され、岩手花巻空港より陸中海岸宮古泊と知りこんな格安料金(泊三食付)二万円で、そんな遠い所まで連れて行ってくるとは思っていなかった。

東北地方の雪と悪天候のため45分程遅れてセントレアを出発。途中、新潟県上空ぐらいから気流による揺れがはじめ花巻空港に近づくとつれ酷くなり、着陸体制に入り車輪も出して地上の人影が見える様になっても上下左右の揺れが激しく、無事着陸出来るか不安になった。着陸寸前で急上昇、2度試みて3度目に無事着陸出来た時は乗客の中から拍手がわいた。

何度か飛行機には乗っているのに高空での乱気流による激しい揺れは経験しているが、横風による低空での揺れは初めて経験した。

到着後、空港ロビーでは皆、胸をなでおろしていた。若い女性の添乗員も初めての体験で機長に祈る思いだったそうです。

花巻市内は小雪だったが道路脇や空地には雪が山となっていた。市内で南部鉄器館と造り酒屋「あさ開」で酒造りを見学した後、雪の中を陸中海岸に向かった。途中海産物センターに寄って陸中宮古の海岸に面したホテルに到着、海の幸いっぱい夕食に舌鼓を打った。陸中海岸線では温泉が出ないそうで天然温泉でなく人工温泉の風呂が残念だった。

翌朝は好天に恵まれホテルを出発し、近くの浄土ヶ浜で遊覧船めぐりをした。昨日は海が荒れて船が出せなかったそうで運が良かったみたいです。船が動き出すと同時



▶ 遊覧船にむらがるウミネコ

時に甲板の回りに無数のウミネコが集まって来てお客皆さんの投げたエサをキャッチ、手に持っているエサまで鋭い口ばしで取って行く光景は壮観だった。1時間程の遊覧の後、海岸線を釜石に向かい、以前は鉄の街、釜石と言われた新日鉄釜石工場を横に見て「遠野物語」で民話と伝説の里として知られる遠野の生活資料館「伝承園」を見学、そんなに遠くない昔の東北地方の生活の様子を観る事が出来た。又、遠野はカッパの故郷として知られ街のあちこちにカッパの置物が目についた。遠野を後に花巻空港に戻り帰路についた。

伊藤(熱田・南)

3月各支部の動き

名古屋板金連合会	15日	支部長会	10名
千種支部	19日	支部会	3名
東北支部	12日	定例会	5名
西支部	18日	例会	8名
中村支部	14日	定例会	13名
昭和支部	8日	定例常会	13名
瑞穂支部	1日	定例会	19名

熱田・南支部	16日	定例会	12名
津島支部	5日	定例会	8名
犬山支部	12日・13日	支部総会	9名
江南支部	15日	定例会	5名
西三板金連合会	22日	17年度会計報告	13名
岡崎支部	8日	三役会	8名
豊田支部	6日	三役会・会計監査	6名
碧南支部	25日	青年部総会・新年会	15名
豊田支部	10日	支部総会	47名
豊田支部	11日	青年部第26回総会	20名
西尾支部	13日	第11回役員・班長会	15名
知多支部	25日	第50回通常総会	26名
東三支部	15日	役員会	14名
東三支部	17日	青年部総会	19名
東三支部	21日	支部総会	58名
東三支部	6日	定例会及び役員慰労会	33名
東三支部	9日	青年部定例会	9名
東三支部	24日	三役会	7名
東三支部	26日	青年部総会	19名

編集後記

2日前に開花した我が家の桜、もうすぐ4月というのに今日は昨日とうって変わって寒の戻り、出花(出端)をくじかれた様だ。



3月には板金組合関連のいろいろな総会や講習会が開かれ、私もいくつかの会に出席した。そこでは、私より若い人たちが司会者、議長、講師などの重要な役目を務め、しかも堂々と立派にこなしていた。大勢の人前で上手く話をする事は難しい。私はいの苦手である。10年前にはこれ程できる若者は少なかったと思う。最近青年部や支部の活動を通じて場数をふんで来ているからではないだろうか。又、彼らは組合の存在意義を理解しているからこそ、与えられた役割を引き受けたのではないかとと思う。彼らが愛知県板金の次世代を担ってくれるのであり、頼もしい限りである。しかし、これには地域格差があり、風土的に若者を育てようとしていない地区があるように感じている。

高橋

三月二十九日(水) 晴れ風寒し
四一四号 編集会議
広報委員 六名出席
午後二時半開会 四時一五分閉会